

史跡 今帰仁城跡

—— 外郭発掘調査概報 ——



2006年 3月

沖縄県 な き じん 今帰仁村教育委員会

はじめに

私たちの住む今帰仁村には今帰仁城跡があります。今帰仁城跡は、国指定史跡であるとともに、平成12年（2000）12月には県内8遺産とともに、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産登録されました。

村では昭和55年度より今帰仁城跡の整備事業を進めてまいりました。史跡の指定面積は約7.9haと広大なため、各郭ごとに計画的に調査を進めております。これまでの整備は主に主郭と志慶真門郭に限られ、他の郭についてはほとんど未着手であります。一方で、今帰仁城跡の便益施設として平成7年に今帰仁村歴史文化センターを開館させ、平成17年には今帰仁村グスク交流センターや駐車場を城外に建設してきました。そこで、これまで駐車場があった外郭の整備がいよいよ本格的に進めることができる環境が整ったことから、平成17年（2005）度より本格的に外郭の調査に着手しております。

今回概要を紹介します外郭は、今帰仁城跡にある10の郭の中で最も北側に所在する地区であります。この地区は昭和54年に2次指定された郭で、指定以前には畑や店舗が多くあった場所であります。これから進めていきます整備によって、地下に埋もれた建物跡などを発掘し、崩れた石垣を修理していくことで今帰仁城跡の具体的な様子を確認することができるものと考えております。

平成18(2006)年3月

今帰仁村教育委員会
教育長 田港 朝茂

1. 今帰仁城跡について

今帰仁城跡は、琉球が三山に統一される前の「三山時代」に山北（北山）の拠点となったグスクです。北山の時代には中国と朝貢貿易を行い、中国側の史書にも「琉球国山北王」として3人の王名が記されています。北山王国が中山によって滅ぼされ、三山が統一されてから後、中山から監守（今帰仁按司）という役人が派遣されました。

発掘調査の成果から築城は1200年代の終わり頃と推定され、1300年代から1400年のはじめ頃までには現在の形に整備されたと考えられます。外郭を含めると10の郭からなり、地形を巧みに利用した曲線を描く城壁の姿は美しく、その延長は外周だけで1,500mを計る沖縄屈指の名城です。

城内に入る本門は平郎門と呼ばれ1962年に復元されたものですが、城壁のほとんどが現在も良好な状態で保存されています。城内最高所は主郭（俗称本丸）と呼ばれ正殿跡や火の神、監守の由来を記す「山北今帰仁城監守来歴碑」の石碑が建立されています。正殿の前面は大庭と呼ばれる郭で、御内原とともに城内でも重要な拝所が多く所在するところです。また、今帰仁城跡から海を眺めることができ、美しい景観を作り出しています。南西方の丘はクバの御嶽と呼ばれる琉球開闢の伝説にも記される重要な御嶽の一つです。



写真1 平郎門近景

2. 今帰仁城跡の位置と環境

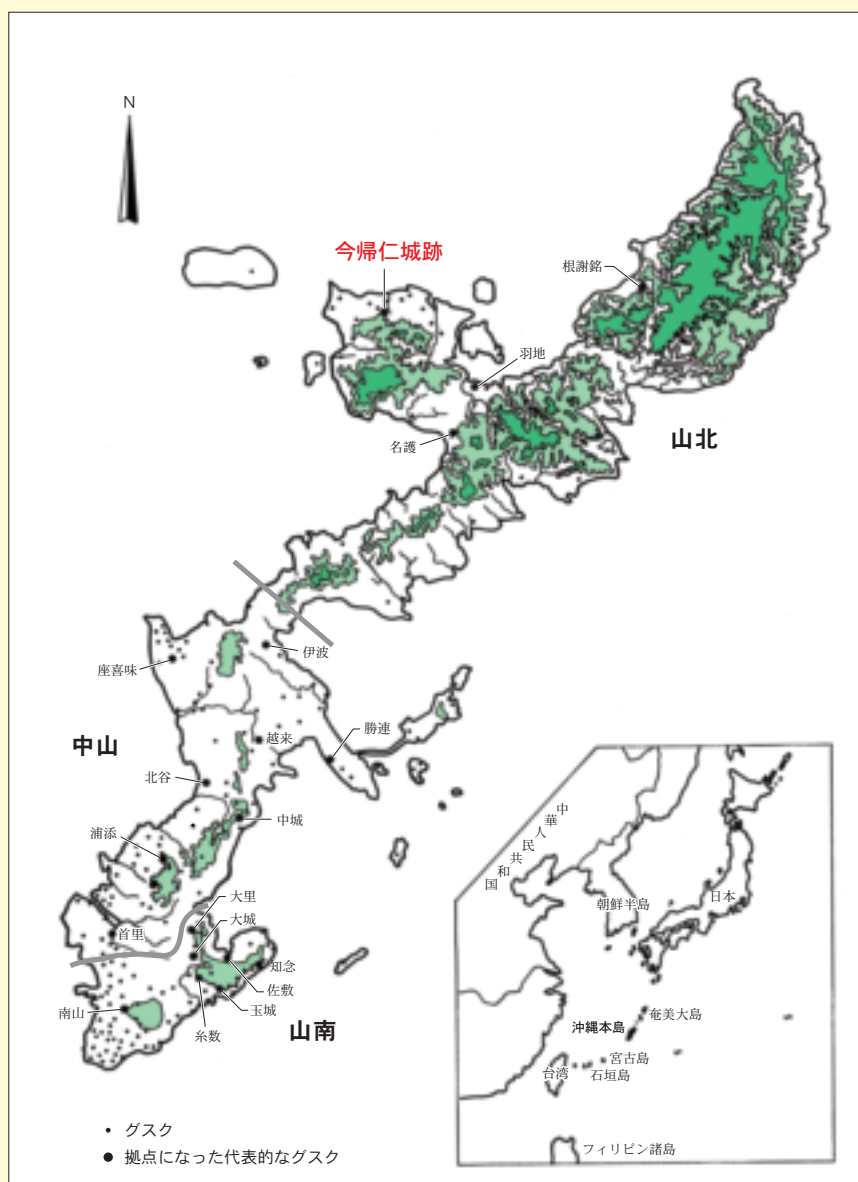
沖縄島は九州島から南に南北約1000kmに180の島が弧状に点在する島嶼群（＝南西諸島）の一つです。南西諸島のほぼ中央に沖縄島が位置しています。東を太平洋、西は東シナ海に面する洋上に浮かび、近海を黒潮が流れ、海洋性、亜熱帯の島として豊かな自然に恵まれています。

今帰仁城跡はこの沖縄島にあって、行政区は今帰仁村に所在しています。今帰仁村は沖縄本島北部、本部半島の北側に所在する人口約9,500人の自治体です。本島北部地域一帯は中南部に比して全体的に山地主体となっているため「山原（やんばる）」と呼称されています。今帰仁村もやんばるに属し山がちな地形となります。しかし丘陵に比して石灰岩台地、段丘や低地の面積が比較的広く、農作物に適した土地が多いことから田・畑地の面積が割合広く、現在も農業中心の産業構造を有する農村です。

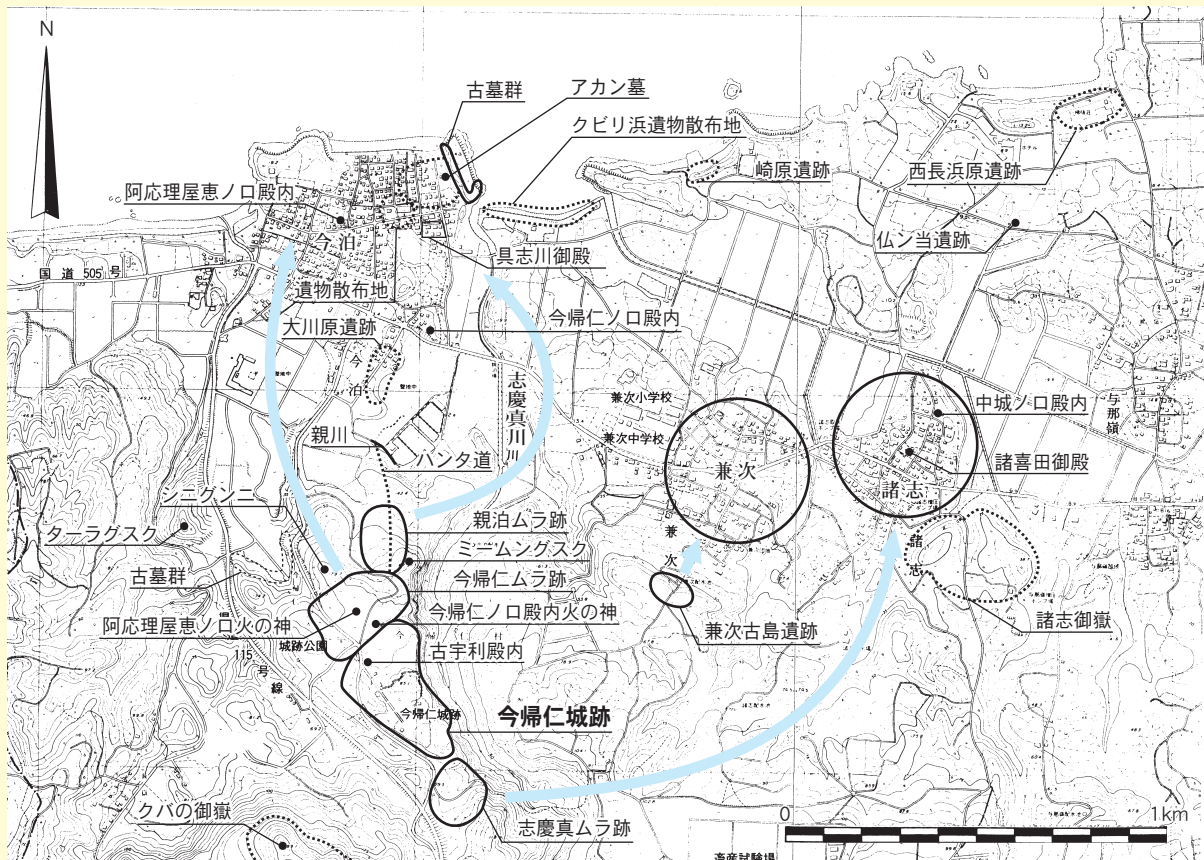
さて、今帰仁城跡は今帰仁村の中でも西端、字今泊に立地しています。城跡の立地する丘陵は標高約100mを計り、丘陵頂部の主郭・御内原からの眺望は広く、北に伊平屋・伊是名島、晴れた日には与論島を望むことができる良所にあります。今帰仁城跡の立地する地質は中生代三畳紀に堆積した地層で、特に結晶化が進んで硬質、厚さが平均して20cm前後で割れやすいのが特徴となっています。



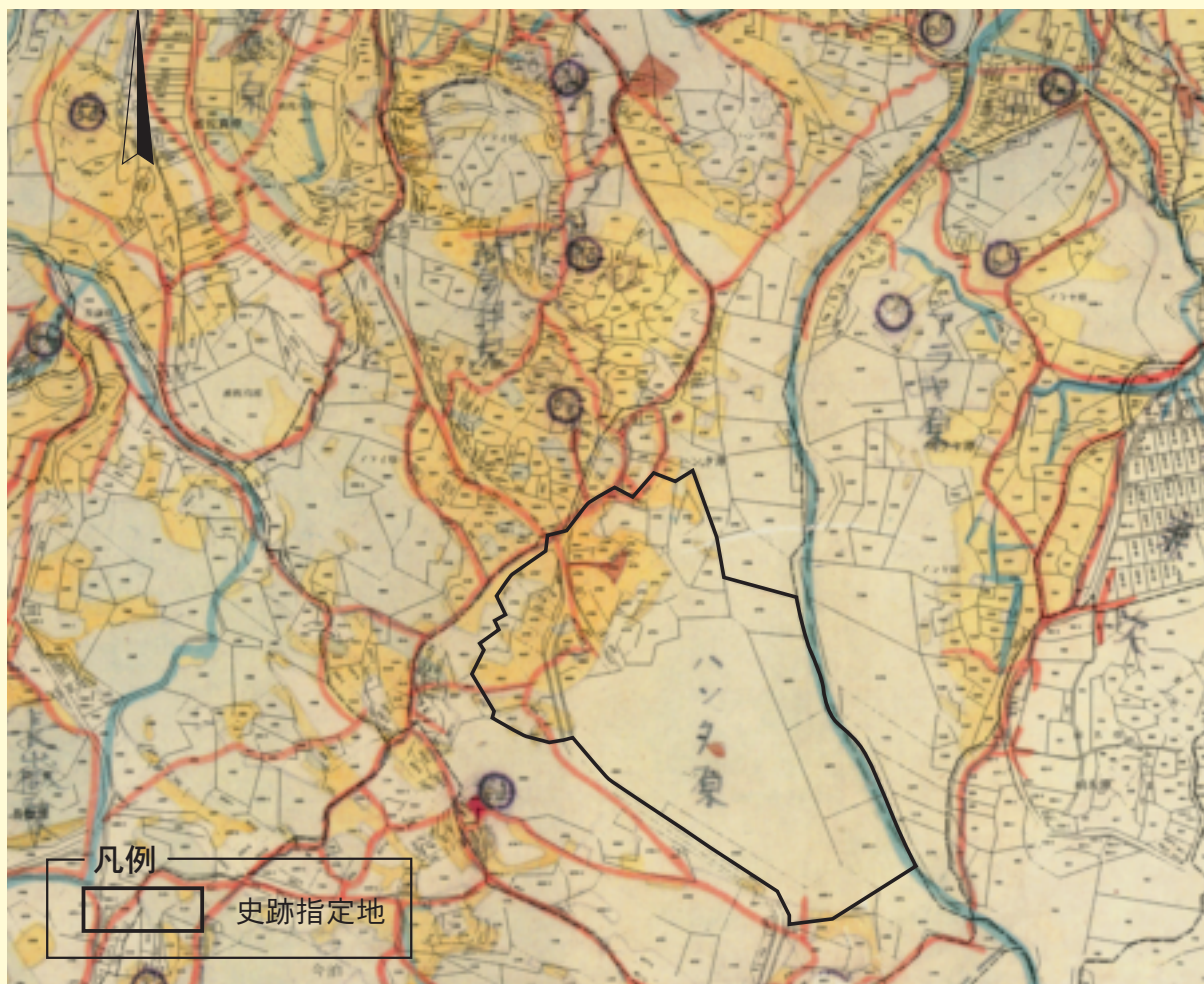
また、今帰仁城跡周辺には多くの遺跡が所在しています。城跡北側緩斜面には今帰仁ムラ跡とよばれる城下町のような集落遺跡があります。この集落遺跡は現在の大字今泊の故地であることが知られていて、実際に発掘調査の成果によって今帰仁城跡と関係の深い遺跡であることが確認されています。他にも周辺にはミーミングスクやシニグンニといった石積み遺構、現在も参拝者が訪れる火之神の祠などが分布しています。



第1図 今帰仁城跡位置図



第2図 今帰仁城跡周辺の遺跡分布図



第3図 今帰仁城跡の現況地積図と明治の地積図の重ね図

3. 今帰仁城跡のこれまでの調査概要

今帰仁城跡の調査はこれまで昭和55年度より年次毎に行われています。石垣で囲まれた郭は大別して10あります。そのうち本格的な発掘調査が実施されたのは旧道の郭、志慶真門郭、そして主郭（俗称本丸）の3ヶ所です。発掘の規模は決して大きくありませんが、城壁の整備の中でも城壁の修復に伴って根石の確認調査などを実施しています。



第4図 今帰仁城跡調査箇所位置図

年 度	西暦	事 業 名	No	調 査 地 区	調査面積	期 間	調 査 担 当	報 告
昭和55年	1980	第 1 次発掘調査	1	志慶真門郭（2区、3区B（西半分））	約200㎡	9/1～12/22	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
			1.5	旧道	約20㎡	〃		未刊
昭和56年	1981	第 2 次発掘調査	2	志慶真門郭（1区、4区、5区南半分）	約200㎡	9/1～12/24	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
昭和57年	1982	第 3 次発掘調査	3	志慶真門郭（3区A（東半分）、5区、6区）	約200㎡	8/23～10/27	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
		第 4 次発掘調査	4	主郭（俗称本丸）	計約500㎡	10/29～12/18	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
昭和58年	1983	第 5 次発掘調査	5	大隅郭	約200㎡	10/5～2/9	宮里末廣 安里嗣淳	当真嗣一 未刊
		第 6 次発掘調査	6	主郭（俗称本丸）		10/31～2/29	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
昭和59年	1984	第 7 次発掘調査	7	主郭（俗称本丸）		8/13～1/22	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
昭和60年	1985	第 8 次発掘調査	8	主郭（俗称本丸）		9/25～12/9	金武正紀 ほか	宮里末廣 既刊
昭和61年	1986	第 9 次発掘調査	9	主郭（俗称本丸）		11/28～12/2	宮里末廣 ほか	既刊
昭和62年	1987	主に整備・資料整理						
昭和63年	1988	主に整備・資料整理						
平成元年	1989	主に整備・資料整理						
平成 2 年	1990	主に整備・資料整理	10	主郭東側城壁（2次）写真測量に伴う崩落石除去（直営）	約40㎡		宮里末廣	未刊
平成 3 年	1991	主に整備・資料整理						
平成 4 年	1992	主に整備・資料整理						
平成 5 年	1993	主に整備・資料整理						
平成 6 年	1994	志慶真門郭東側石積み基礎調査	11	志慶真門郭東側石積外壁側基礎	約 6 ㎡	9/12～9/13	金城亀信 玉城 繁	既刊
平成 7 年	1995	志慶真門郭東側石積み土質調査	12	志慶真門郭東側石積外壁側基礎	約20㎡	9/13～1/13	沖縄設計センター(委託)	既刊
平成 8 年	1996	志慶真門郭東側石積試掘調査	13	志慶真門郭北東部北側アザナ調査	約20㎡	9/2～9/14	山内昌治 玉城 繁	既刊
		志慶真門郭東側石積試掘調査	14	志慶真門郭北東部南側アザナ調査	約20㎡	10/7～10/19	山内昌治 玉城 繁	既刊
平成 9 年	1997	志慶真門郭南側石積試掘調査	15	志慶真門郭南側石積外壁側基礎	約 2 ㎡	6/25～9/12	宮城弘樹	既刊
		志慶真門郭南側石積試掘調査	16	志慶真門郭南側石積外壁側基礎	約 5 ㎡	2/16～3/24	宮城弘樹	既刊
平成10年	1998	外郭石積遺構調査（直営）	17	外郭西地区石積み遺構調査	約10㎡	5/11～7/29	宮城弘樹	既刊
平成11年	1999	志慶真門外壁遺構調査（直営）	18	志慶真門	約10㎡	4/13～2/29	宮城弘樹 新垣 力	未刊
		階段遺構確認補足調査（直営）	19	主郭西側階段遺構	約 3 ㎡	9/30～10/1	宮城弘樹 新垣 力	未刊
		主郭東側石積遺構確認調査（直営）	20	主郭東側調査（3次）	約10㎡	3/17～3/26	宮城弘樹 新垣 力	未刊
平成12年	2000	主郭東側工事に伴う立会調査（工事）	21	主郭東側調査（4次）		11/13～2/22	宮城弘樹	未刊
		大隅城壁修理工事に伴う事前確認調査（直営）	22	大隅城壁調査	約10㎡	9/26～3/31	宮城弘樹	既刊
平成13年	2001	主郭東側崩落石撤去工事に伴う立会調査（工事）	23	主郭東側調査（5次）		9/21～12/19	宮城弘樹	未刊
平成14年	2002	主郭東側城壁内壁試掘調査（直営）	24	主郭東側調査（6次）	約40㎡	9/2～9/20	宮城弘樹 玉城 靖	未刊
		主郭東側工事に伴う立会調査（工事）	25	主郭東側調査（7次）		2/6～3/27	宮城弘樹 与那嶺俊	未刊
平成15年	2003	主郭南側城壁崩落石撤去（直営）	26	南側城壁調査（1次）		9/1～10/31	宮城弘樹	未刊
		鳥居撤去工事に伴う立会調査（工事）	27	Z-30	8 ㎡	9/30～10/1	玉城 靖 与那嶺俊	未刊
平成16年	2004	第 1 次外郭発掘調査（直営）	28	城外北西区R-23～26、S-23～26	400㎡	4/21～3/31	玉城 靖 与那嶺俊	未刊
		主郭東側工事に伴う立会調査（工事）	29	主郭東南アザナ調査		11/12～3/21	宮城弘樹 与那嶺俊	未刊
		墓撤去工事に伴う立会調査（民間）	30	U-24	9 ㎡	2005年 4 月	玉城 靖 与那嶺俊	未刊
平成17年	2005	第 2 次外郭発掘調査（直営）	31	試掘、東区Ⅸ区R-28～29、Ⅲ区V-33ほか	800㎡	8/9～3/31	玉城 靖 与那嶺俊	未刊
		主郭南側城壁崩落石撤去（直営）	32	主郭南側城壁調査（2次）南西アザナ基礎調査	10㎡	6/22～8/22	玉城 靖 与那嶺俊	未刊
		主郭東側工事に伴う立会調査（工事）	33	主郭東側調査（8次）		1/26～3/31	宮城弘樹 田港朝史	未刊

第 1 表 今帰仁城跡調査一覧

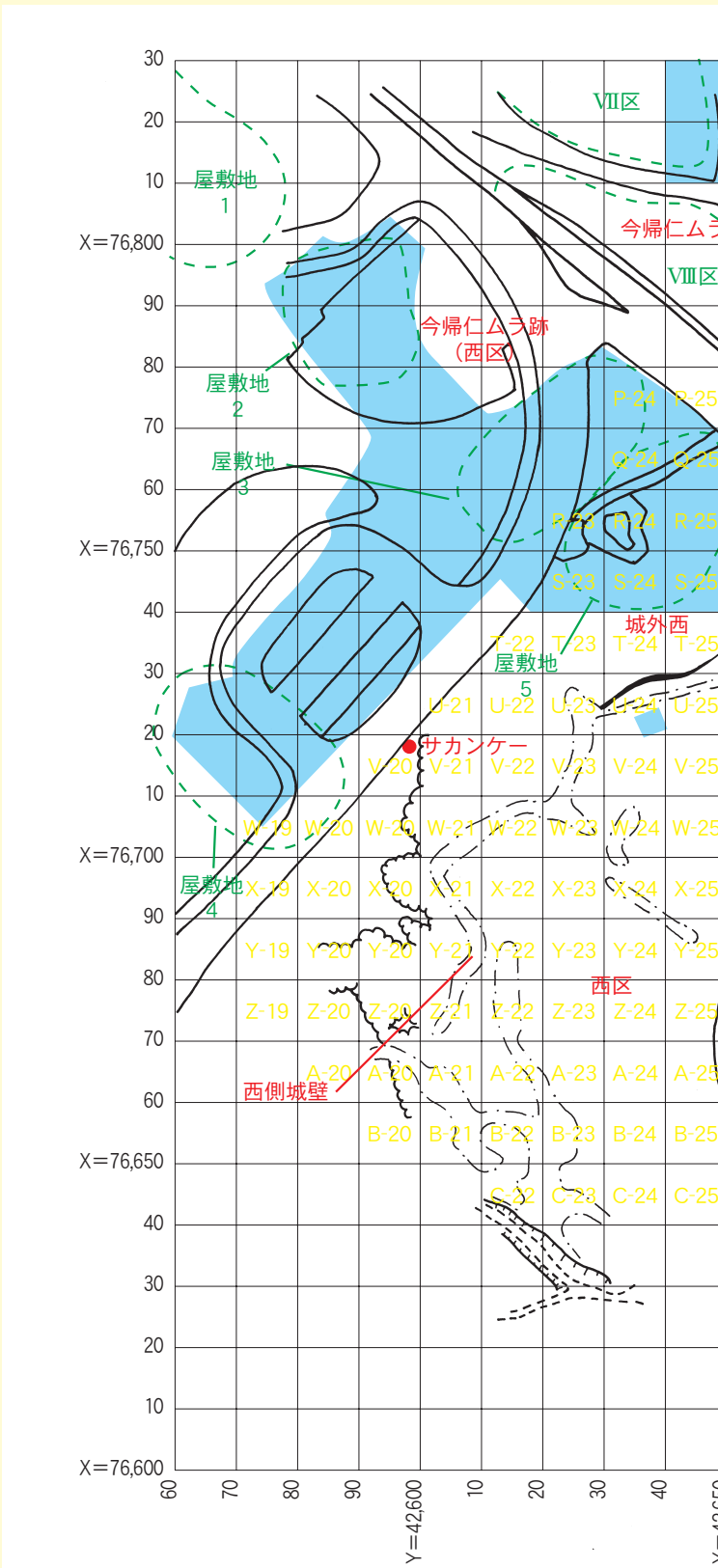
4. 外郭の概要

今帰仁城跡は、概略10の郭から構築されています。外郭はその中でも最も北側にある郭で昭和54年に追加指定された地域がこれに該当します。その面積は約20,000㎡で今帰仁城跡の郭の中でも最も広い地域となっているのが特徴です。外郭を区画する石垣は北側に150mにわたり良好な状態に残っていますが、門については道路で分断されているため現況が著しく失われています。また、西側についても残りが悪く土塁状になっているだけで、近代になって破壊された可能性が考えられます。門及び西側の城壁の損壊著しい部分については、今後発掘調査によって根石など基礎部分の確認を行うことで、その規模や規格を確認することができると期待されます。外郭一帯は指定以前から開発されている地域で、指定当時には家や店舗が5軒あり、駐車場が構築され、道路が外郭を東西に分断している状況にありました。村では昭和49～50年度に主要な部分の用地購入を、平成10年度からは公有化されていない用地の公有化事業を行い店舗や住宅の物件補償を行うなど公有化事業を進め、史跡を往時の姿へ復元するべく取り組んでいるところです。

さて、外郭の郭内の区画について見ていきます。まず大きく分断している現況道路を境に東側を東区、西側を西区として調査を行っています。店舗が建ち並ぶ中央は仮に中区としておきます。また外郭の外側で公有地となっている地域も城壁外面の調査とともに調査を実施しています。最も残りの良い地域が東区で平成17年に駐車場の撤去を行い、試掘調査を実施することで概ね9つの小区画に区分することができます。この区画は東区Ⅰ区～Ⅸ区の名称で調査を進めています。志慶真門郭の調査でも石垣で

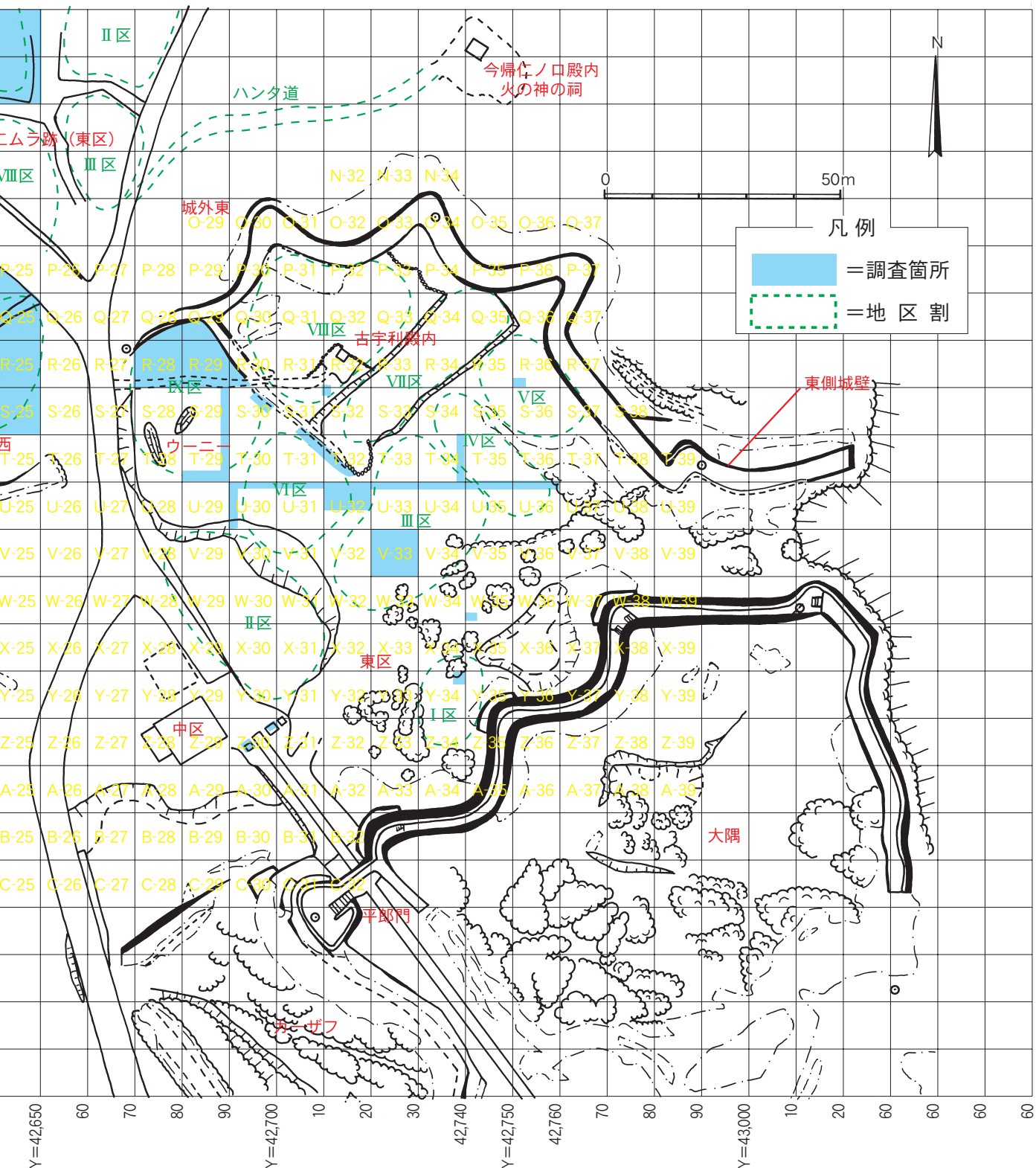


写真2 外郭東区近景



第5図 外郭の地区設定図

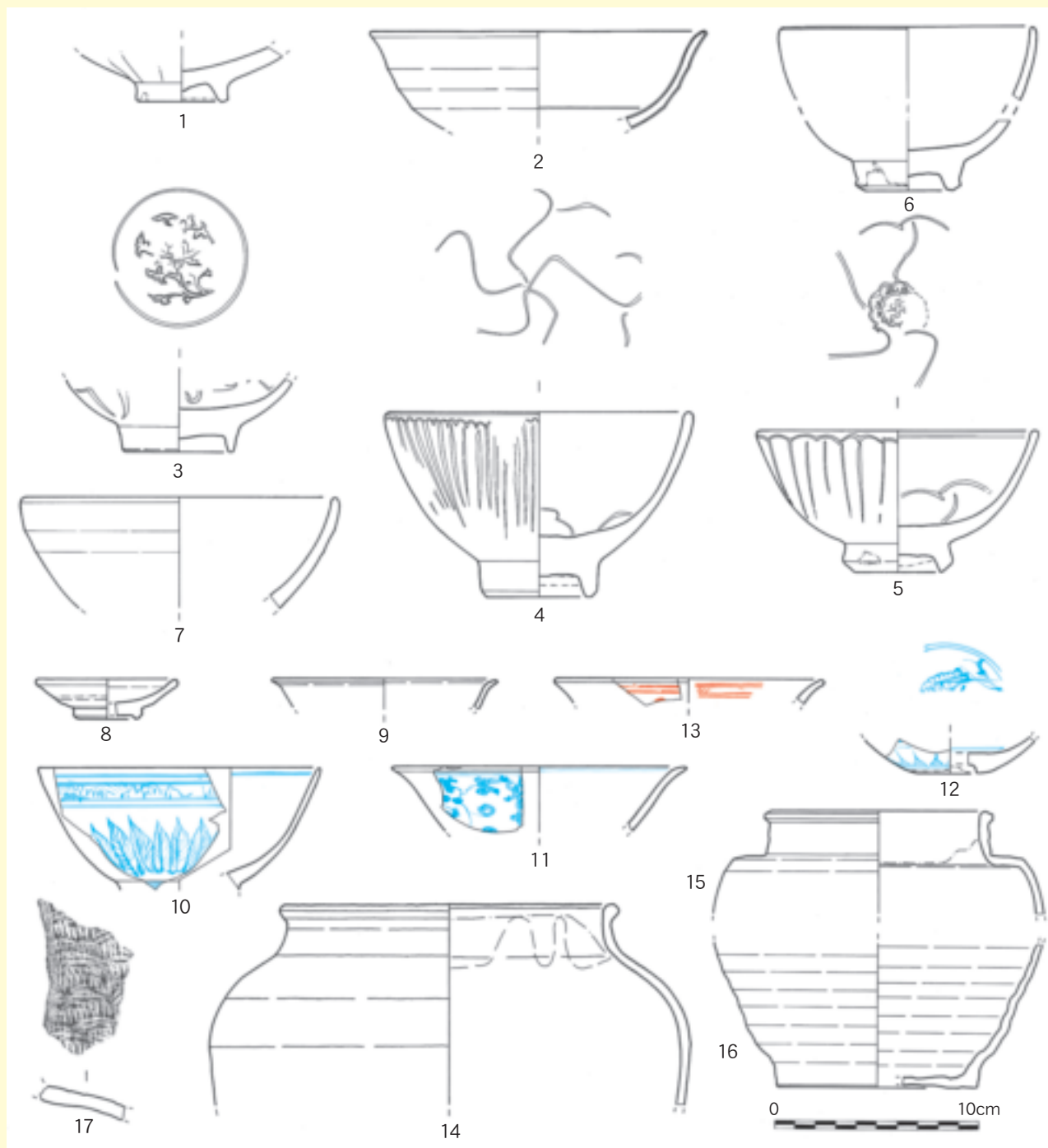
囲まれた平坦なテラス（平場）内部が幾つかの平坦面で構成され、平坦面のそれぞれが発掘調査によって屋敷地であることが確認されています。このことから、外郭の平坦面も今後の調査によって建物跡が検出されるものと想定されます。



5. 出土遺物

外郭から出土する遺物はこれまでの今帰仁城跡の調査で得られている遺物と同様、中国から輸入された青磁や白磁、青花、褐釉陶器などの陶磁器類です。他にもタイ、ベトナム、朝鮮半島、日本(備前)などの地域で焼かれたやきものも多く出土しています。また、鉄製品や銅製品、ガラス製のビーズや砥石といった生活雑貨、装飾品、あるいは武器類も出土しています。現在発掘調査を進めている地域の出土遺物は未整理の状態ですので、ここでは清掃作業などによって外郭で表面採集されている遺物を取り上げて紹介してみます。

外郭の出土品とこれまで調査を行ってきた主郭、志慶真門郭の出土遺物を比較研究することで、外郭がいつどのように構築され、どんな人々が、どのように使ったのかを知ることができるものと期待されます。



第6図 外郭表採遺物 (S= 1/3)

1～6：青磁（1：鎗蓮弁文碗 2：外反碗 3：碗底部 4・5：細蓮弁文碗 6：無文直口口縁碗）
7～9：白磁（7：ピロースクタイプ碗 8：皿 9：皿） 10～12（10・11：碗 12：皿）
13：赤絵皿 14～16：褐釉陶器壺 17：タイ産半練土器



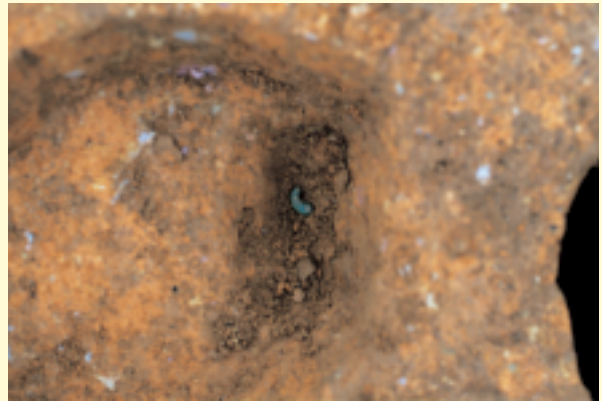
1次外郭 R-24 S74 dot.65 青磁無鎬蓮弁文皿出土状況



1次外郭 R-25 遺構内 dot.122 青花瓶出土状況



1次外郭 R-24 II区 dot.39 錢貨出土状況



1次外郭 R-24 Pit.108 dot.92 勾玉出土状況



2次外郭 R-29 II層 (10~20) dot.10 土器出土状況



2次外郭 R-29 II層下 (30~40) dot.63 骨製品出土状況



2次外郭 R-30 II層 (10~20) dot.22 青磁出土状況



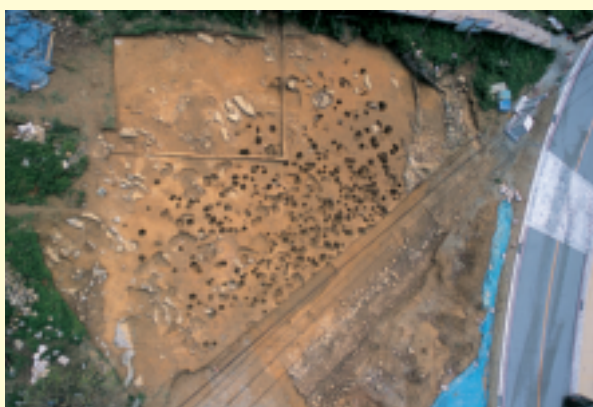
2次外郭 R-30 II層 dot.25 獣骨出土状況

写真3 出土遺物検出状況

6. 遺構

今帰仁城跡の外郭は発掘以前より地表面に露出している遺構が数多く見られます。石垣はその代表的なもので、今帰仁城跡の大隅郭を区画する大きく蛇行する石垣は存在感のある遺構の一つです。また外郭を区画している石垣は北側の東西に位置しています。中でも東側の石垣は良好な状態で保存されています。この他にも外郭内を区画する石垣や土留め石積みなどの遺構が地表面の観察によって知ることができます。区画される石垣の一部は現在は樹木で覆われていますが、聞き取りによるとかつてはこの側を通り平郎門へ行ったとされます。また外郭は指定以前には畑として利用されていた経緯があります。このため畑を区画する石列や用途不明の石積みが分布しています。

一方、発掘を進めていくと現れる遺構の代表的なものが、柱穴や土坑とよばれる「穴の跡」です。グスク時代の建物の多くは掘立柱建物という地面を素掘りして柱を据える建物でした。このため発掘を進めていくと沢山の柱穴やゴミ捨ての穴等が検出されます。これらの遺構を丁寧に発掘することで、外郭に建てられていた建物の様子を知ることができます。



1 次外郭調査（完掘状況）



同左（石積遺構）



2 次外郭調査（遺構検出状況）



同左（石積遺構）

写真 4 遺構

7. 祭祀と拝所

今帰仁城跡には、現在でも多くの参拝者が訪れます。外郭にも重要な参拝場所が幾つかあります。古宇利殿内は、東区Ⅷ区に所在する祠です。祠内には石と香炉が配置されていて古宇利島の人が旧暦8月に参拝に訪れています。30年以上前の古い写真には赤瓦が乗っている写真があります。もう一つ重要な拝所として「レコーラウーニー」があります。今帰仁ウーニー、本部ウーニーと呼ばれていて字今泊によって行われる祭祀の舞台となる聖域です。旧盆明けの戌の日に行われる「ウンジャミ（海神祭）」では船漕ぎの所作を平朗門とウーニーの間を往復しながら執り行われています。現在でも今帰仁ノロさんを中心に今泊区によって行われています。このように、今でも執り行われる祭祀に関わる遺構があることは外郭を知る上でも重要な要素の一つです。

前述したとおり地表面で既に観察することのできる遺構や地中から現れる遺構、あるいは祭祀や畑の耕作といった人々の継続的な営みによって作られた史跡景観が多く残っているのが外郭の特徴です。これら新旧・用途など様々な遺構を、どのように整備していくかを考えることがとても重要になります。



レコーラウーニー



ウンジャミ（今泊の祭祀）



古宇利殿内遠景（古写真）



古宇利殿内（古写真）

写真5 祭祀の様子と拝所の古写真

8. 整備計画の概要

村では昭和55年度から今帰仁城跡の本格的な整備に着手してきました。以後年次的に発掘調査と石垣整備を実施しています。一方平成12年の世界遺産登録を契機に、城内に所在していた駐車場では不足する事態となり、平成13年度に今帰仁城跡周辺整備計画を策定、平成17年に駐車場や便益施設を城外に完成させております。城郭外の整備の進捗により平郎門から駐車場までの導線上にあたる外郭の早期整備が緊急的な課題として浮かび上がっています。

外郭指定の経緯は、海洋博覧会に伴い村内各地で県外企業による土地買い上げが行われたなか、外郭もこれにより注目され、追加指定として公有化されました。

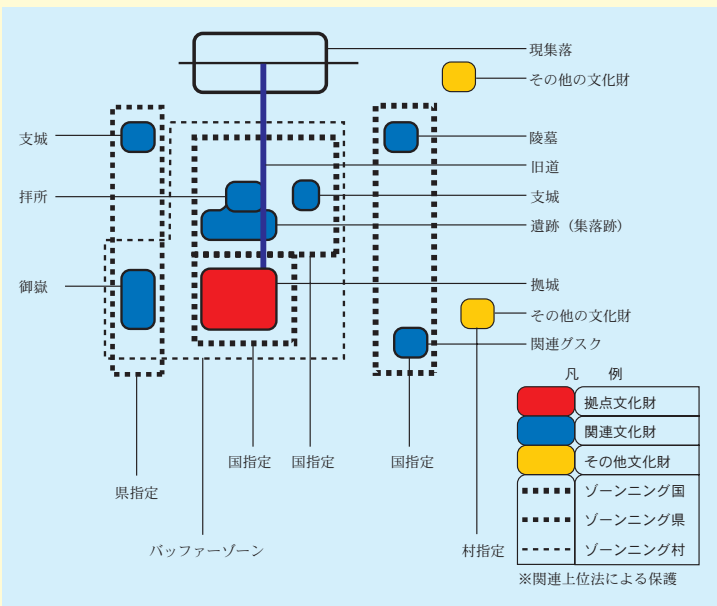
また外郭一帯は史跡指定（昭和54年）以前から開発が実施され、駐車場、店舗、トイレ、文化財標柱、墓、道路など多くの施設が乱立する状況にあります。このため、本来あったと考えられる旧正門や外郭西側の城壁などその形状が不明なものも少なくありません。一方で、外郭東側の城壁は保存良好で、祭祀施設として現在も利用されるウーニーや古宇利殿内、地表面で確認できる段々畑跡や郭内を区画するような石垣遺構などが確認されています。このように諸条件の整ってきた現在、外郭東区を調査することは好機を得たと言っても過言ではありません。

さて、これまで外郭の調査として昭和63年度に外郭城壁の崩落石の一部撤去が行われ写真測量を実施したり、平成10年度には城内所在の危険構築物撤去工事として旧おみやげ品店が撤去され、これに伴い城壁の図化を行っております。また平成15年度には鳥居撤去工事に際し基礎の床掘部分において堆積状況の確認を行っておりますが、未だ本格的な整備着手には至っておりませんでした。

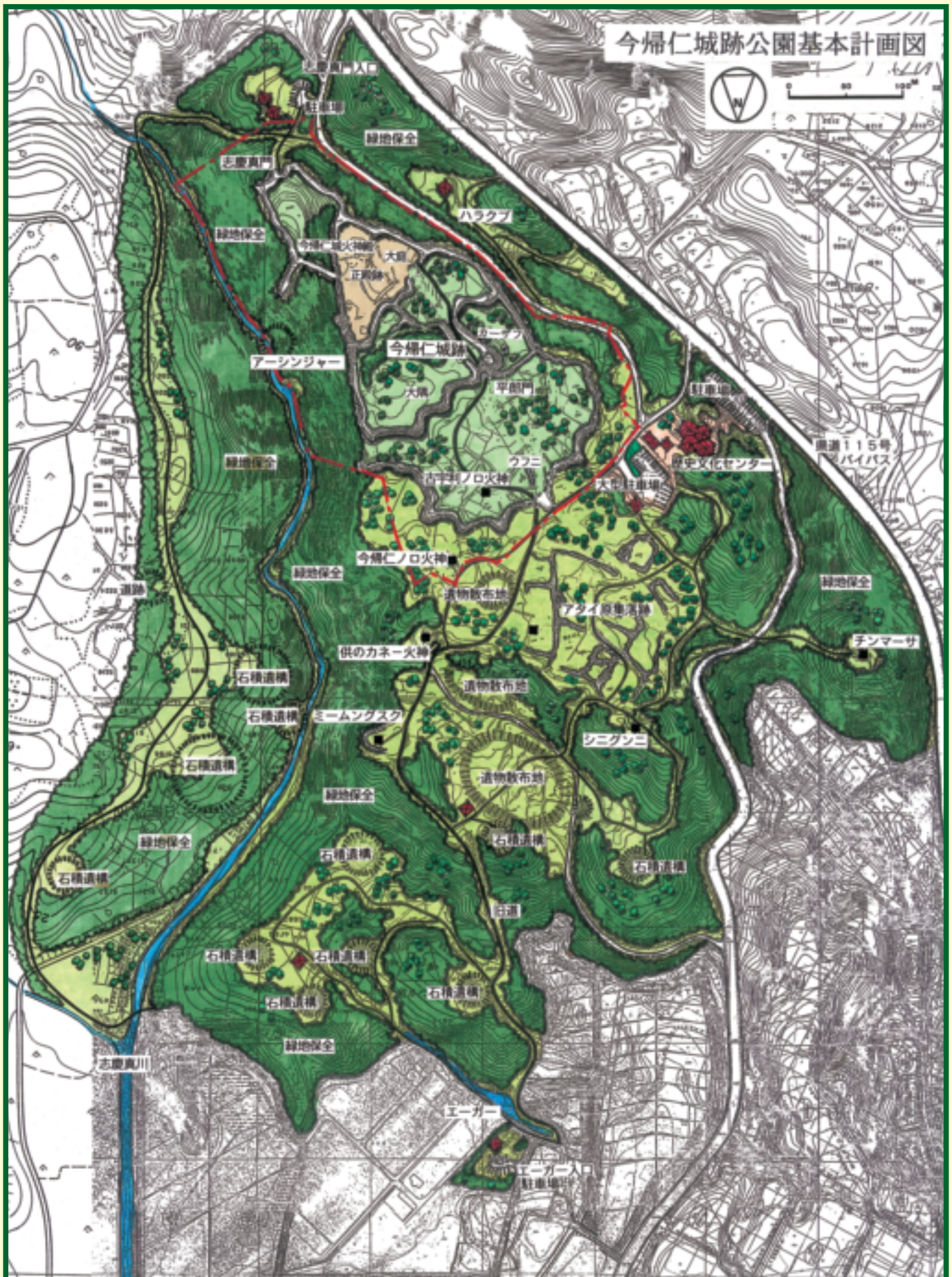
そこで、今帰仁村では史跡保存修理事業によって今帰仁城跡の保存修理を25年にわたり実施してきましたが、向こう5年程度を目処として短期的に外郭整備を本格的に実施することを計画しています。具体的には平成17年度より史跡等総合整備活用推進事業を導入し、より史跡の総合的な活用に資する整備を計画していきます。

整備の進んだ城外の便益施設からよりスムーズに城内を散策いただくために、外郭を中心に整備を遂行することで、史跡等の全体像を認識できるような石垣の復元的整備を実施していきます。また、史跡外には、史跡等のガイダンス体験・活用のためにグスク交流センターを建設、史跡の範囲や往時の全体像を理解するための地形模型が既に設置されております。このため、外郭の整備が進めばより解りやすい城跡としてご利用いただけるものと考えられます。

いずれにせよ、整備を実施する前に外郭の地区については発掘調査を前提とする調査成果に準じて整備案を検討していくことが重要です。大きな方針として、現在の城郭の散策利用などを考えると、今帰仁城跡を最も印象づける大隅城壁を視界に入れることができるような、開けた形での整備が有効的な活用となると思われま



第7図 ゾーンニング概念図



第8図 今帰仁城跡公園基本計画図

『今帰仁城跡公園基本構想・基本計画書』平成4年 今帰仁村教育委員会より

発行／今帰仁村教育委員会 〒905-0401 沖縄県今帰仁村字仲宗根232

編集／今帰仁村教育委員会（文化財係） TEL (0980) 56-3201

印刷／文進印刷株式会社